



校報

水糸者

No. 1295

元年度・第154号

ハインリッヒの法則って???

…「転ばぬ先のつえ」と「危険予知能力」…

昨日からの積雪に種小っ子たちは、大はしゃぎしながら校庭で遊んでいます。休み時間になると、帽子に手袋、防寒着、マスクと『完全防備』した子ども達が、校庭に積もった雪の中で元気に遊んでいます。

本校ではインフルエンザ罹患者が急増する事もなくこの時期になってきました。今後とも油断なく、人ごみでのマスク着用や手洗い、うがいはもちろん、規則正しい生活を送り、体の抵抗力を高めていく事などの予防と対策をお願いいたします。



「ハインリッヒの法則」という法則をご存じでしょうか？

保険会社にお勤めの方や労働災害を扱う方であれば、なじみの言葉かも知れません。

【ハインリッヒの法則とは】

この法則は、アメリカの保険会社に勤めていたハインリッヒ氏（1886年～1962年）が導き出した、労働災害における経験則を法則化したものであり、1件の重大事故の背景には、29件の軽微な事故があり、その背景には300件もの危く大惨事となる、傷害のない災害（「ヒヤリ・ハット」）が発生しているという法則で、「1：29：300の法則」とも呼ばれているものです。

1件の重大な事故・災害

29件の軽微な事故・災害

300件のヒヤリ・ハット

本校では「安全・安心な学校」のために、この「ハインリッヒの法則」を忘れずに、日々子ども達の安全教育と安全な環境整備に取り組んでいるところです。

学校でのけがを防止していくには、「環境の整備」だけでなく、「しなやかな体の育成」と「危険予知能力の育成」もあわせた3つをバランスよく、計画的に行っていく事がとても大切となってきます。



待ち焦がれていた雪に大喜びの子ども達。転んでもけがをしないよう、きちんとした服装で、元気に安全に遊んでいます。

【本校が行っている「環境整備」・例】

- ①施設や器具など『環境』が主因となる、けがと事故の防止のため、日頃から全職員で校舎内外の危険個所を確認し合い、不備がある場合、速やかに修理を行っています。(毎月1日は、全職員で校舎内外の安全を確認する「安全の日」とし、全職員でとなっています)
- ②危機管理対応マニュアルを全面的に見直し、全教職員でいつでも、どんな時にも同じ対応ができるようにしています。
- ③保護者さんには「緊急メール配信」へのご加入を勧めています。
- ④子どもには「場や季節に合った服装」の徹底を行っています。
例；外遊びの時には、帽子と手袋の着用を必ず行う。



あぶない！
すべりません！
あるいて出ましょう

玄関には危険を知らせる掲示物も貼っています

【しなやかな体の育成・例】

逆さになる、転がる、ぶら下がる、支えるなど『非日常的な動き』を多く取り入れた体育授業などで、しなやかな体づくり（巧緻性や柔軟性など）の育成を図っていきます。

学童期における非日常的な動きは、脳の健全な発達に欠かせません。

この事については、5月16日発行の『校報1165号』に掲載した「ロコモティブ・シンドローム」、6月20日発行の『校報1183号』に掲載した「スポーツテストでわかる事」などもご参考に。



【危険予知能力の育成・例】

- ①危険予知能力を高める学習は、5年生の体育（保健領域）の中でも扱います。ここでの学習では「けがの防止」というテーマで、交通事故の防止やけがの手当てなどについても併せて学びます。
- ②「自らが正しく考え、正しく判断する」場面を加えた避難訓練を行っています。
- ③担任がついていない時（休み時間など）の正しい避難の仕方を日頃から確認し、校内にも掲示しています。 — 【掲示物の例】 —
- ④「～してはいけません。」という、理由もない注意や指導ではなく、「～すれば、どうなっていたと思いますか。」といったような、先を見通し、予知できる注意や指導を心掛け、正しい『行動選択』と『意思決定』ができる子の育成に努めています。



現代の子ども達は、乳幼児器具の改良・普及により「乳幼児から『転ぶ』機会が減り、『痛みを伴う体験』や『失敗を繰り返さない体験』が不足している。」とも言われています。その事が、子ども達の危険予知能力やしなやかな身体の形成を低下させているのかも知れません。子ども達の健全でたくましい成長のためには、「転ばないために気づく力（危険予知能力）」や「けがをしない転び方」、「転んでもけがをしないしなやかな体づくり」などの要素が必要となってきます。「甘えさせる」と「甘やかす」を誤った『過保護』や、誤った解釈での『転ばぬ先のつえ』ではなく、正しい意味での『転ばぬ先のつえ』を子ども達に提供し、身につけさせたいと考えています。

本校は今後とも、ハインリッヒの法則を忘れずに『ヒヤリ・ハット』の段階で、慢心と油断なく学校安全に取り組んでいます。

必要のない「けが」を防ぐため、場と季節に合った身を守る服装（帽子・手袋、防寒具、長靴…）で、雪の上で遊ぶ種小っ子。このような遊びを通して子ども達は「危険予知能力」や「しなやかな体（巧緻性や柔軟性など）」を、自然に養っているのです。

